

How to ART for Children

こどもにとってのアートとは？



学校法人福島わかば幼稚園

作成者：美術講師 草野志門

はじめに

子供たちにとって、なぜアートが重要なのか？

それは、**非認知能力**を伸ばすためです。

これまでのアート教育では、画力を均一に伸ばすこと、空間認知が正常に行われることなどを念頭に指導されていましたが、本来アートで行うべき教育は違うところにありました。

まず、アートを経験することで、今までとは**違う視点を持つことができるようになることです**。また、オリジナルを制作するためには、独自の視点による、**より多くの制作プロセスの解明**が必要になります。制作の中でこれらを繰り返すことで、目には見えない、非認知的な情報を、より多く獲得できるようになることを念頭に教育すべきでした。

よって、アート教育は非認知能力を伸ばしていくために必要不可欠です。非認知能力は、**子供たちがこれから生きる上での「行動」「選択」の原動力**となるものです。変わりゆく現代をより良く生き抜くための土台なのです。新たな教育方針としての**「STEAM教育」**を取り入れており、より時代のニーズに合う幼児教育の提供に繋がっています。

アートと非認知能力、このキーワードとともに何をすべきか、当園の特色を生かすことでどのような企画が出来るのかをまとめます。

知って頂きたい、園でのアート活動の要素

▶ 様々な画材を使用します

クレパス、水彩絵具（透明水彩）、墨、アクリル絵の具などを使用し、多種多様な制作活動を行います。また、美術講師自ら、上記の画材を含め、画用紙なども選んでいます。なぜならば、子供たちが得る最初の感動をより大きくするためです。例えば、発色の良い紙に発色の良い絵具を使うことで、絵を描くことがもっと楽しくなるように、もっと表現したくなるように、制作物に合わせて画材を選定しています。

▶ 自分らしさ、独自性を手放して認められる場でもあります

言葉かけの工夫など、独自のアート提供を実施しています。表現の指導をする上で、言葉かけの工夫は重要です。表現に上下は無いという考えに立ち、「上手」「下手」のような言葉は使いません。あくまで具体的に何が良いのか、指導者の立場からはこう見える、というような表現やコミュニケーションの取り方をします。これらにより、自分の表現の良さを認めてもらえる場になり、さらには、誰かと比べるだけではない、自分の課題点に真摯に取り組むきっかけにもなります。

▶ 結果論ではなく、プロセスを一番に活動しています

良い作品を作ることだけが目的ではありません。良い材料に触れてみることで、表現を認めてもらうことがとても重要です。プロセスが実を結んだときに結果として、良い作品が生まれます。プロセスの内容を一番濃くすることで、初めて学びと中身のある結果が得られます。

非認知能力の重要性①

想像力と創造力

▶ 0から1を生み出す力は何事にも必要不可欠

20年以内に今ある人間の仕事の47%が機械によって代替される。
しかし、新しい仕事も創出されます。

▶ 未来を想像する力

何も無いところから想像し、創造できるのは人間の特権です。
クリエイティブに生きることは、人生を豊かにしてくれます。

▶ 右脳の活性化

右脳とは、非時間領域です。つまり、集中モードになることです。
ex) 読書していたら時間を忘れた、趣味に没頭して時間感覚がなくなる等

非認知能力の重要性② プロセスを考えることの重要性

- ▶ **途中の失敗には、「良い失敗」と「悪い失敗」がある**
行ってきたことのプロセスがきちんとあるかは重要です。例えば制作の途中でどんなことを、どんな理由で決めたのか（意思決定のプロセス）があればそのときに反省できるはずです。
- ▶ **成功したときは「反証」できる**
最終的に成功したケースは、反証してみるとどんなプロセスがあったのか自然とわかり、その筋道をたどることが出来ます。
しかし、最後に失敗してしまったときは、プロセスの道がどこかで寸断されていることに気が付くでしょう。

非認知能力の重要性③ アートとは**視点**である

- ▶ **独自の視点を持つことがアートの第一歩**
独自の視点で見つけた感動を表現することがアートだと考えます。
- ▶ **独自の視点を発見するためには、物の見方を養うこと**
絵を描く中で、子供たちには新しい視点を見つけるために、様々なものの見方をしてもらいます。
- ▶ **食事も運動もただやれば良いものでは無いはず**
食事であれば、食味や色彩であり、運動では、体の動かし方など。物事には見るべきポイント、**視点**が隠されています。

作品展「芸術家220人展」開催実績①

～大規模作品展の開催記録～

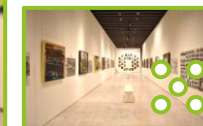
せんだいメディアテークにて、今までで最大規模の作品展を行った時の記録です。ギャラリー4200をすべて借り、第1章～5章までのセクションに分け、**作品3,000点以上**を展示しました。来場者数は**約900人**を記録しました。制作・展示の企画構成を美術講師である草野志門が担当し、展示作業（搬入搬出を含める）は、園の職員と有志の手伝い3名によって完遂されました。

※福島市に同規模のギャラリーがなかったため仙台で開催しました。

展示室総面積：1095m²

開催日数：4日

会場準備日数：3日



○ 第2章で鑑賞する親子

○○ 第1章終盤の巨大絵画

○○○ ギャラリートークの風景

○○○ 天井近くまで貼られた絵画

○○○○ F50号の卒制展示回廊

作品展「芸術家220人展」開催実績②



2015年度第1回開催

アオウゼ大活動室1～3使用



2016年度第2回開催

アオウゼ大活動室1～3と小活動室1・2と多目的ホール使用



2017年度第3回開催

アオウゼ大活動室1～3使用



2018年度第4回開催

せんだいメディアテーク6F展示室を使用



2019年度第5回開催

アオウゼ大活動室1～3使用



2020年度第6回開催

アオウゼ大活動室1～3使用

作品展「芸術家220人展」開催実績③



2021年度第7回開催

アオウゼ大活動室1～3使用



2022年度第8回開催

とうほうみんなの文化センター3階



2023年度第9回開催

コラッセふくしま企画展示室

ワークショップ実績①

2016年度・マチエールを使って絵を描こう

5人の作家を招集し、マチエール（画肌のテクスチャ）を使った絵画の制作を行いました。夏をテーマに保護者も子供も一枚ずつの制作です。作家の作品を鑑賞したり、ライブで描いている様子も観られる貴重な時間になりました。

**使用画材：S6号キャンバス
アクリル絵具
メディウム等**



ワークショップ実績②

2017年度・お遊戯室にペインティング (四季を表現)

取り壊し予定の遊戯室の床一面に絵を描くワークショップです。
企画の構成から子供たちも関わり、季節の絵柄や色などを一緒に考えて制作しました
親子参加、年少児～小学生まで参加しました。

描画面積：約230㎡
使用絵具総量：42,350ml



○ 集合写真 ○ 制作の様子 ○ 制作中の絵画 ○ 使った絵具の山 ○ 姉妹で制作する様子